

安全安心だより

令和8年11月4日

令和8年度№4

子どもと話してほしい防犯の話
～5分だけ子どもさんと話してみてください。～

1. はじめに

いつも子どもたちの安全な登下校へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。子どもが巻き込まれる事件や事故のニュースを見るたびに胸が痛みますが、「うちの地域は大丈夫」「うちの子は大丈夫」と、どこかで他人事に感じてはいないでしょうか。

大人の目で見守ることも大切ですが、何より重要なのは、子ども自身が危険を察知し、自分の身を自分で守る力(**危機回避能力**)を育てることです。

ぜひ家庭内で、お子様と具体的な防犯の「5つの問いかけ」をしてみてください。

一度の会話が、いざという時にお子さまの命を救う判断に繋がります。



2. 家庭で今すぐ確認を！命を守る防犯チェック

（問いかけ1）「知らない人に声をかけられたらどうする？」

👉 **答え：**子どもにとって「何度も見かける近所の人」「優しそうな人」「保護者の友達を名乗る人」は、“知っている人”になってしまいます。

「保護者以外の車には絶対乗らない」「保護者以外にはついていかない」を徹底してください。

（問いかけ2）「知らない大人に道を聞かれたら、どのくらい離れる？」



👉 **答え：**大人の人がすぐに届かない**「2メートル(車の半分くらいの距離)」**を体感させましょう。不審者は「道を教えて」と親しげに近づき、一瞬で子どもを掴める距離を狙います。「2メートル離れて話す」「教えてあげようと近づかない」が鉄則です。学校と家庭のダブルチェックで、子どもの危機回避能力を育てましょう。

（問いかけ3）「帰り道、もし怖くなったらどこの家に逃げ込む？」

👉 **答え：**通学路にある**「子ども110番の家」**や**「まもるくんの家」**のマークを、お子さまは認識しているでしょうか？いざという時、迷わず敷地内に入って助けを求められるよう、実際の家をご家庭で一緒に確認しておきましょう。



（問いかけ4）「ランドセルの防犯ブザー、今すぐ引っ張れる？」

👉 **答え：**手の届かない位置(ランドセルの横など)についていませんか？**肩ベルトの「胸の前」**が正しい位置です。また、電池切れで鳴らないケースも多発しています。実際につけて音が出るか試してみましょう。



（問いかけ5）「通学路で、一人ぼっちになりそうな場所はどこ？」

👉 **答え：**お友達と別れた後の数分間、静かな裏道や高い塀が続く場所はありませんか？「そこは早歩きで通る」など、ご家庭でルートの危険度を共有してください。



3. 低学年の盲点と裏ワザ

体が小さく、視野が狭い低学年（1年生～3年生）に特化した、命を守る具体的な防犯テクニックです。

（1） 身長110cmの壁



低学年の視野は、大人が思っている以上に狭く、目の前の信号に気を取られると近づいてくる車に気づけないことがあります。また、歩道ギリギリに立っていると、車の「内輪差」に巻き込まれたり、身長が低い低学年は、車のダッシュボードやピラー（車の柱）に隠れやすく、運転席からの死角に入りやすくなります。そのため、交差点や横断歩道では**「一歩下がって待つ」**ことを教えてあげてください。

（2） 雨の日の「まわりが見えない傘」



雨の日は傘を深くさすため、周囲の視界が狭くなります。また、雨音で後ろから近づく足音や車の音に気づけません。**「傘を少し後ろに傾けて、前と周りが見えるようにさす」**よう声かけをお願いします。

（3） ランドセルが命を救う「おもり（重石）作戦」

もしお子さまが登下校中に不審者に腕を掴まれたり、連れ去られそうになった時は、ランドセルを背負ったまま地面に丸くなって、うつ伏せになると効果的です。

ランドセルがクッションになり、大人の力でも子どもを抱き上げたり、引っ張ったりしにくくなります。**「大声を出しながら100キロのおもり（重石）になる」**練習をぜひご家庭で一度やってみてください。

4. 良かれと思った行動の危険

保護者の行動が、実は別の危険を生んでいるかもしれないという視点です。

（1）「自宅の玄関先」でのお見送りの罠

子どもが角を曲がるまで見送って安心していませんか？不審者は、「保護者の目が届かなくなった直後の角」を狙っています。見送る際は、できるだけ集合場所や、見通しの良い交差点まで目を配りましょう。

（2）「車で通学路お迎え」の危険

雨の日などに車で通学路へお迎えに行く際、狭い通学路での路上駐車は、他のお子さまの歩行スペースを奪い、死角を作って交通事故の原因になるケースが増えています。

5. おわりに

登下校の見守り活動を行っているスクールガード・リーダー（警察官OB）からも「地域の見守りだけでなく、家庭内でお子さまと具体的な防犯の約束（距離の取り方やいざという時の動作）を共有しておくことが、子どもの危機回避能力を高めるためには大切」との助言もあります。

今回、「お子さまへの5つの問いかけ」「低学年特有の盲点」「注意したい保護者の行動」についてお伝えしました。

子どもの危機回避能力を育てるため家庭内での取組みとして、参考にしていただければ幸いです。

～「子ども安全安心対策推進事業」に関するお問い合わせ先～
松山市教育支援センター事務所（安全・安心担当）　　電話：089-943-3206 まで